

市民活動・ボランティアを始めたい人にも…

市民活動・ボランティア

MIE NON-PROFIT ORGANIZATION & VOLUNTEER NEWS

2006年

6月号

平成18年5月25日発行
通巻90号

◆発行◆

514-0009

津市羽所町700番地

アスト津3階

みえ市民活動ボランティアセンター

Tel.059-222-5981

Fax.059-222-5971

E-mail seiknpo@pref.mie.jp

NPO室のホームページ

http://www1.mienpo.net/npot

三重県のホームページ

http://www.pref.mie.jp

市民活動・ボランティアニュースは
こちらにあります!

【地域の市民活動センター等】

●津市●みえ市民活動ボランティア

センター／津市市民活動センター／

オールウェイズ(津センターパレス

1階)／津中央郵便局ボランティア

コーナー／(有)デザインオフィス萩

野 ●桑名市●特定非営利活動法

人みえきた市民活動センター ●

四日市市●四日市市民活動セン

ター／寺子屋プロジェクト ●鈴鹿

市●市民活動情報ネットワークす

ずかのぶどう ●松阪市●三重中京大

学／松阪市市民活動センター／松

阪まちづくりセンター『まちの駅松

阪「寸庵」 ●伊勢市●特定非営

利活動法人伊勢志摩NPOネット

ワークの会／伊勢市民活動セン

ター ●鳥羽市●鳥羽NPOネットワ

ークセンター・結 ●名張市●名張市立

図書館／名張青年会議所／皇学館

大学名張キャンパス／名張市総合

福祉センター／エコリゾート赤目の

森／名張市市民活動センター／くら

しの情報センター同夢 ●伊賀市

●ウィリアム テルズ・アップル ま

ちづくりセンター／伊賀市中央公民

館／伊賀市立図書館／上野青年会

議所／伊賀市市民活動支援セン

ター ●明和町●明和町市民活動

サポートセンター ●南伊勢町●南

勢町市民活動室連絡協議会

【地域の社会福祉協議会】県内の市

町村社会福祉協議会

【金融機関】百五銀行各店／三重銀

行各店／東海労働金庫各店／第三

銀行各店

【行政機関等】三重県庁県民ホール

／三重県地域機関(各県民セン

ター)(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、

松阪、南勢志摩、伊賀、紀北、紀南)／

三重県民サービスセンター(情報公

開窓口)／三重県総合医療セン

ター／三重県立一志病院／三重県立志

摩病院／三重県立こころの医療セン

ター／斎宮歴史博物館／三重県立

博物館／三重県立図書館／三重県

生涯学習センター／三重県男女共

同参画センター『フレンドみえ』／

三重県人権センター／三重県身体

障害者総合福祉センター／三重県

環境学習情報センター／各市町村

役場

みえの舞台づくり提案・実践事業(三重県版特区)の第2回提案募集

県の総合計画「県民しあわせプラン」において掲げる『新しい時代の公』の実現に向けて、下記のとおり提案募集を行いますので、みなさまの積極的なご提案をお待ちしています。

●事業の目的／県の総合計画「県民しあわせプラン」において掲げる『新しい時代の公』の実現に向けて(1)多様な主体が「公」の機能を担っていくに当たって、障害となっている規制又は制度などを緩和、改革することで、多様な主体の活動環境を整えること。

(2)多様な主体から規制緩和、制度改正、外部委託(業務廃止)などの提案を出してもらうことで、「公」を担う主体の育成、意識醸成を図ること。

(3)前2項目を実現するために、三重県として県行政のあり方を見直すこと。

●事業の進め方／県が行っている業務について、規制緩和、制度改正、外部委託(業務廃止)などについての提案を受け付け、提案主体と意見交換を行いながら、県として対応を検討します。提案内容や県の回答については、原則として全て公表します。

●提案主体・対象／提案主体の資格や提案対象の制限はありませんが、提案する項目に関して、自らが実施する意思を有していることが必要です。

●提案の提出方法／提案様式に記入のうえ、ファックス、メール、郵送などで三重県政策部企画室まで提出してください。提案様式は県のホームページ(<http://www.pref.mie.jp/TOPICS/2006050101.htm>)からダウンロードできます。

●提案の受付期間／平成18年5月22日(月)～6月23日(金)

●提案への対応／県の権限に属する項目は、『新しい時代の公』を実現するために、どうすることが望ましいか』という視点から、提案内容の実施可否について県庁内で検討します。

なお、国の権限に属する項目が提出された場合は、構造改革特区・地域再生などへの提案作成を支援し、市町の権限に属する項目の場合は、提案主体の希望を聞いた上で市町へ情報提供します。

●問い合わせ先／514-8570 津市広明町13番地 三重県政策部企画室企画担当(酒井・前田・濱地) Tel.059-224-2062 Fax.059-224-2075 E-mail kikakuk@pref.mie.jp



これから市民活動・ボランティア活動を始めたという方、始めたばかりという方の疑問などにお答えします。

市民活動ボランティアニュースは、今月号よりイオングループのお店で手にはいるようになりました。これは、イオングループのCSR活動の一環として行われるものです。

市民活動ボランティアニュースは、県内の市民活動の情報を伝える情報誌です。

今月から発行部数は13,000部、原稿の締切は毎月14日になりました。もし、なにか市民活動をされている方は、メール・FAXなどでぜひ記事をお寄せください。

また、市民活動ボランティアニュースのイベント情報の折り込みは、記事提供が締切に間に合わない場合の緊急措置として行っています。しかし、折り込みができる部数は、発行の1割にも足りません。広く伝えていくためには、記事提供をしていただくことが一番です。自分たちの団体だけが目立つために記事も、折り込みもとい

は、記事提供をしていただくことが一番です。自分たちの団体だけが目立つために記事も、折り込みもとい

は、記事提供をしていただくことが一番です。自分たちの団体だけが目立つために記事も、折り込みもとい

情報をお寄せください。市民がつくる市民活動の情報です。ホームページ版、朗読テープ版もあります。お気軽にお問い合わせください。



先日、県内社会福祉協議会のボランティア担当者が集まる会議がありました。この会議は毎年3～4回ほど開催しているもので、いつも県域全体で集まっていた。しかし、今年度からは少し形式を変えて、県域全体で集まるのは年度始めと最後だけ、それ以外は県内の各地域で集まることにしました。

その理由はいろいろあります。近場で開催できるので各担当者が出席しやすくなること、その地域ごとの問題点を中心に話を進めることができること等々。でも、一番に望む効果は、より多くの意見が出るようになることです。当たり前のことかもしれませんが、多くの方は大勢の前よりも、少人数のほうが意見を言い易くなります。特に要望や疑問点を聞きたかったりする場合は、なるべく少数単位で話を聞いたほうが、効果があるようです。

今年度の会議は、報告だけで終わらない会議に一步でも近づければ…と思っています。

みなさんへのお知らせ

特定非営利活動法人認証申請団体と成立団体のお知らせ

特定非営利活動法人(NPO法人)申請は5団体ありました。引き続き、認証申請を受け付けています。

申請のあった団体と成立した法人を紹介します。なお、関係書類は三重県生活部NPO室及び各県民センターに備え置いてあります。

●認証申請団体

(1)名称(2)代表者氏名(3)法人事務所の所在地

(1)まみいはんど(2)池田 農(いけだ あさ)(3)伊勢市一之木1丁目14番地5

(1)伊勢ふるさと会(2)北村 純(3)伊勢市大世古3丁目1番97号

(1)三重施設安全協会(2)中島幸雄(3)津市河辺町197番地4

(1)ふるさと企画舎(2)田上 至(3)北牟婁郡紀北町海山区相賀480番地11

世古ビル303号室

(1)安濃津福祉会(2)小倉由起子(3)津市夢が丘一丁目6番地の2

(平成18年4月15日～平成18年5月14日申請分)

●成立した特定非営利活動法人(登記年月日)

中部国際フォーラム(平成18年4月5日)

伊勢サッカー協会(平成18年3月9日)

みどりの家(平成18年4月3日)

三重精神保健福祉会(平成18年4月4日)

子どもステーションくまの(平成18年3月3日)

ユニバーサルデザイン同夢(平成18年4月3日)

ブルーリボン(平成18年4月3日)

子育て支援NPOほかほかはうす(平成18年4月3日)

祐里(平成18年4月12日)

世界寛水流空手道(平成18年4月24日)

三重難病連(平成18年5月2日)

自利利他(平成18年5月8日)

(平成18年4月15日～平成18年5月14日届出分)

イベントスケジュール

川づくり会議みえ「第4回総会&記念講演会」

●とき/6月10日(土)受付13:30～

●ところ/アスト津4階アストプラザ・会議室1

●内容/総会、記念講演会、懇親会とも一般の方も参加できます。

総会は14:00～14:45、記念講演は15:00～16:30、懇親会は17:00～です。記念講演会は『水利用と水の祀りの考古学』

をテーマに、三重県埋蔵文化財センター主査の穂積裕昌さんにお話しいただきます。

●参加費/懇親会は3000円程度

●申込・問い合わせ先/川づくり会議みえ(事務局:久世)

Tel.090-5637-0727 E-mail kuze2@bronze.ocn.ne.jp

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



青春キネマ館

石原裕次郎特集

●とき・作品/時間は両作品共11:00～15:00～

6月10日(土)～16日(金)「嵐を呼ぶ男」

6月17日(土)～23日(金)「赤いハンカチ」

●ところ/伊勢進富座 ●参加費/800円

●内容/青春キネマ館&キッズシアターとは大人には懐かしい日

本映画を、子どもには親子で楽しめるアニメ作品などを「映画館」で見てもらおうという企画です。6月は石原裕次郎特集。「俺らはドラママー やくざなドラママー 俺らが怒れば嵐を呼ぶぜ!」のセリフも有名な「嵐を呼ぶ男」。そして、凶悪な麻薬ルートを追う中で一般人を誤射してしまった二人の刑事と、被害者の間に生まれた愛憎劇「赤いハンカチ」の2本を2週続けて上映します。

●問い合わせ先/青春キネマ館&キッズシアター上映実行委員会
Tel.0596-23-0839(受付時間19:00～22:00)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



劇団ふるさとときやらばん

「地震カミナリ火事オヤジ」

●とき/6月13日(火)開場18:00 開演18:30

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

●申込方法/当日直接会場へ。
●問い合わせ先/亀山市市民部市民参画協働室
Tel.0595-84-5008

子どもの心と身体の発達から捉える講座

●とき/6月24日(土)10:00~16:00
25日(日)10:00~15:00
●ところ/鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずかホール
●内容/子育ての話題が毎日のように新聞に取りあげられ、社会全体での子育て支援の必要性が言われています。みんなで子育てを応援する地域社会づくりのためには、子どもにかかわるボランティアの方がたくさん必要です。今回は「子どもの心と身体の成長発達」に焦点を当てて子どもの問題を考える講座を行います。あなたも一緒に子育てを応援しませんか。
24日はMIEチャイルドラインセンター代表理事、田部真樹子さんによる講座とオフィス516代表の佐久間広一郎さんによるワークショップ。25日はロールプレイと奈良県立医科大学教授、飯田順三さんによる講座が行われます。
●持ち物/24日のワークショップは動きやすい服装で出席を。
●申込・問い合わせ先/513-0817 鈴鹿市桜島町6丁目20-3 特定非営利活動法人子どもサポート鈴鹿
Tel.&Fax.059-383-1322
ホームページ <http://www4.familie.ne.jp/~kodomosz/>

みえ生と死を考える市民の会記念講演会

●とき/7月2日(日)12:00受付開始
●ところ/三重県教育文化会館6階ホール
(Tel.059-228-1122)
●参加費/一般1000円、会員500円(前売は各100円引き)
●内容/13:00からはアンサブルG.Gによる合唱。13:30からは甲府市にあるふじ内科クリニック医師、内藤いずみさんの講演。日本ホスピス・在宅ケア研究会の理事でもある彼女に「いのちを囲むもの 今こそ看取りを皆で考えよう」と題しお話しいたします。なお、11:30~12:00までは市民の会の総会を行います。
●問い合わせ先/516-0805 伊勢市御園町高向927 遠藤方 みえ生と死を考える市民の会 Fax.0596-20-8105
E-mail takuendou-gi@umin.ac.jp

ネットワークのよびかけ

2006車イス体験・ふれあいウォークラリー大会参加者&ボランティアスタッフ募集!

車イス体験・ふれあいウォークラリーとは、参加者が車イスに乗って町の中に設定されたコースを廻りながら、福祉をテーマにした体験ゲームで得点を競う福祉レクリエーションです。ゲームは、手話や点字、車イスの押し方のほか、様々な福祉に関することを楽しみながら体験できます。当日は身体にハンディを持った人も多数参加する交流の機会でもあります。また、このイベントの大きな特徴は、多くのボランティアが集まり、工夫しアイデアを出し、協力して責任を持って作り上げること。毎週開催する実行委員会には多くの若者が参加しています。なお、この実行委員会はイベント終了後に解散しますので、ボランティアの体験、入門としてバッチリです。
【ボランティア募集中】
開催日まで毎日、津センパレ3階で若いボランティアたちがにぎやかに作業をしています。時間は18時から20時くらいまで。当日の



体験ゲームの様子。

みのボランティアスタッフも可能です。とりあえずお電話ください。
【2006車イス体験・ふれあいウォークラリー大会】
●とき/6月4日(日)受付開始8:30~ 開会9:30~
終了予定15:30(雨天11日に延期)
●ところ/コースは津市香良洲町一帯、集合は香良洲体育館
●参加費/無料(昼食やお茶は各自ご持参ください)
●申し込み・問い合わせ先/514-0027 津市大門7-15 津センターパレス3階 津市社会福祉協議会(担当:伊藤、崎)
Tel.059-213-7111 Fax.059-224-6067
●主催/2006車イス体験・ふれあいウォークラリー大会実行委員会、社会福祉法人津市社会福祉協議会

ビデオ撮影・編集ボランティアの募集

NPO TEAM笑美s(チームエビス)では、障害者が障害者のためにフィットネスプログラムを作成する事業を独立行政法人福祉医療機構の助成金を受け行うものです。そこで、ビデオ撮影及び編集の協力ボランティアの募集します。募集人数は1人で、謝金もあります。詳しくは面談で。編集アドバイスのみも歓迎です。
●応募締切/6月末まで
●問い合わせ先/志摩市阿児町鶴方1058-59 TEAM笑美s
Tel.0599-43-8111 Fax.0599-44-5001

「もったいない」使い捨て食器とさよなら しましよう! リユース食器の貸し出しいたします。

「デポネット三重」はデポジット制度の実現を目指すボランティアグループです。三重県の業務委託を受けてリユース食器を貸し出しています。食器の種類はカップ3種類、皿2種類、丼2種類、はし・スプーンです。貸出価格は食器はいずれも1個15円、はし・スプーンは1つ5円になります。
●申込・●問い合わせ先/デポネット三重 Tel.&Fax.059-333-6909 E-mail taiyo@cty-net.ne.jp
ホームページ <http://www5.cty-net.ne.jp/~deponet/>

THE 9TH FUTSAL YOKKAICHI CUP 2006参加チーム募集

試合形式は(財)日本サッカー協会フットサル競技規則を基本に、1試合15分。予選は1チーム2試合。決勝は8チームのトーナメントで行います。各試合の審判は参加チームにお願いします。募集数は40チーム。先着順です。運営スタッフも同時募集中。
●とき/7月16日(日)9:00~ ●ところ/四日市ドーム
●参加費/1チーム7000円 ●応募締切/6月11日(日)
●申込方法/申込書を郵送かFaxで下記まで。
●主催・申込・問い合わせ先/510-0885 四日市市日永5丁目11-14 プラムコート ひなが接骨院内 楽園倶楽部
Fax.059-347-4075
ホームページ <http://www.cty-net.ne.jp/~rakuen-c/>

絵本ワールド in みえ参画者募集

『三重県内の各団体・グループによる楽しい舞台』
人形劇、紙芝居、ストーリーテリング、パネルシアター、朗読・民話などを行う団体を募集します。
『読み聞かせ・読み語り』
県内各地で活動している読み聞かせ・読み語りの団体。
『ワークショップ』リミック、絵本の中の料理を作ろう、自分のイスを作ろう、里山体験、科学実験などのワークショップを予定しています。
『団体紹介』
県内の絵本に関する団体、子ども・子育てに関する団体を一挙に紹介します。ブース展示、ミニステージによる表現、ヤングアダルト参画企画の場(フリーマーケット、ダンスなど)があります。

【絵本ワールドinみえ】

- とき/9月23・24日(祝・日)
- ところ/三重県総合文化センター
- 主催・問い合わせ先/絵本ワールドinみえ実行委員会 特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター内
Tel.059-232-0270 Fax.059-232-0271
E-mail mie-kodomo-npo@za.ztv.ne.jp
ホームページ <http://mie-kodomo-npo.org/>

社長業を体験しませんか! サ・ベンチャー留学

ベンチャー起業家に5日間弟子入りして、ビジネスの最前線・真剣勝負の現場を目の当たりにし、起業・創業という選択肢についての認識を高め、県内起業家の拡大を図ることを目的としたインターンシップです。受入れ企業は次の5社(五十音順)。株式会社アイズ、株式会社アサプリホールディングス、農事組合法人伊賀の里モクモクファーム、有限会社キャリアブレイス、株式会社マイクロキャビン。

- インターンシップの実施時期/8月1日(火)~月31日(木)のうち5日間実施 ※6月28日(水)に事前研修、9月10日(日)に研修発表会を開催(日程は変更の場合あり)。
- 参加費/実施期間中の諸費用は、原則受講生の自己負担。ただし、損害保険料(保険期間5日間で3000円を上限)と交通費(インターン期間中の5日間のみ1日1000円を上限)は主催者負担。
- 募集対象者/平成18年4月1日現在で18歳以上の、県内に在学又は三重県出身の学生のうち、次のいずれかの要件に該当する方。

(1)ベンチャースクール、創業塾等のビジネスプラン作成に係る講座や、起業・創業関連講座の受講歴を持つ方

(2)起業・創業に対する意欲があり(1)の要件を満たす学生と同等の資質があると主催者が認めた方

- 募集人数/5人 ※応募者多数の場合は、受講生を選考。

- 応募締切/6月9日(金)

- 申込方法/受講申込書を郵送、Fax、E-mailのいずれかで下記まで。申込書は財団法人三重県産業支援センターに備えてあり、受講希望者には郵送可能。ホームページからダウンロードもできます。

- 主催・申込・問い合わせ先/514-0004 津市栄町1丁目891 三重県合同ビル5階 財団法人三重県産業支援センター新産業振興チーム(担当:平野・溝端) Tel.059-228-3585 Fax.059-228-3800 E-mail school@miesc.or.jp
ホームページ <http://www.marugoshi.com/>

無事故・無違反チャレンジ123参加者募集

平成18年7月1日から10月31日までの123日間、5人1組のチーム単位で無事故・無違反に挑戦。見事達成されたチームの中から抽選で賞品が当たります。参加対象は三重県内に在住または勤務し、運転免許(原付でも可)を取得されている方です。

- 応募締切/6月30日(金)(当日消印有効)

- 参加費/1チーム5000円

- チーム編成/一般チーム(5名で1チームを編成)、シルバーチーム(平成18年7月1日現在で満65歳以上5名で1チームを編成)

- 賞/(一般・シルバーチーム部門共通)

特賞 50万円分ラベルギフト券 1チーム

1等 25万円分ラベルギフト券 2チーム

2等 5万円分ラベルギフト券 10チーム

チャレンジ賞 1万5千円分ラベルギフト券 30チーム程

(シルバーチーム部門のみ)

シルバー特別賞 10万円分ラベルギフト券 1チーム

参加者すべてに参加記念品があります。参加者のうち1年以上無事故・無違反を継続されている方に対して全国の優遇店で割引等の特典があるSDカードをお送りします。

- 申込方法/各市役所・町役場・警察署交通課・地区交通安全協会・県民センター・三重県庁8階チャレンジ実行委員会事務局に備え付けの所定の申込用紙とともに、郵便局にて振込んだ参加費用(手数料無料)の払込金受領証(コピー可)を下記に送付。

- 申込・問い合わせ先/514-8570 津市広明町13番地 三重県生活部交通安全室内 チャレンジ実行委員会事務局
Tel.059-224-2410 Fax.059-228-4907
E-mail seikotu@pref.mie.jp

フリーマーケット情報

フリーマーケットin四日市ドームVOL.21

- とき/6月11日(日)10:00~16:00

- ところ/四日市ドーム(四日市市大字羽津甲5169)

- 参加費/前売315円、当日525円 小学生以下無料

- 内容/700ブースのジャンボフリマ。会場内ステージではウルトラビンゴゲームも開催。

- 主催・問い合わせ先/特定非営利活動法人MFA

Tel.059-359-7755 Fax.059-359-7756

E-mail webmaster@mfa.gr.jp

ホームページ <http://www.mfa.gr.jp/>

助成金 ニュース

三重ボランティア基金助成

- 受付締切/7月10日(月)

- 助成の対象となる団体/現在、県内各市町社会福祉協議会にボランティア団体として登録され、福祉の向上を目的とした活動が計画的・継続的に行われ、地域の高齢者や障害者・児童等に対する支援を行っている団体。

- 助成の対象となる活動/1、ボランティア団体基盤強化助成…福祉活動を目的としたボランティアグループの活動の基盤強化を図るための助成。

- 助成の額/器材・器具のみの助成 1団体300千円以内(1団体1回のみ)

- 応募方法/申請書は、市町社会福祉協議会または事務局に設置。

- 問い合わせ先/財団法人三重ボランティア基金事務局 津市桜橋2丁目131番地 Tel.059-227-9994

緑と水の森林基金

- 受付締切/6月15日(木) 必着

- 助成の対象となる団体/民間の非営利団体、法人、個人(調査研究に限る)。

- 助成の対象となる活動/1、普及啓発森林…緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発活動。

2、調査研究…山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査。

3、活動基盤の整備…森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進。

4、国際交流…国内で開催される国際会議への支援、海外情報の収集。

- 対象事業の期間/平成18年9月1日~平成19年8月31日

- ※森林ボランティア活動に対する理解とその社会的地位向上のため設定された9月第3日曜日の「森林ボランティアの日」に併せて、可能な範囲で事業の一部(または全部)を計画して下さい。

- 助成の額/限度は団体200万円(特別な事業は300万円)、個人100万円。

- 応募方法/申請書はホームページからダウンロードするか、返信用封筒に140円切手を貼付の上、下記まで請求。

- 問い合わせ先/(社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」係

102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 Tel.03-3262-8451

Fax.03-3264-3974 ホームページ <http://www.green.or.jp>

緑の募金公募

- 受付締切/6月15日(木)

- 助成の対象となる活動/(1)一般事業 国内または海外で行う森林整備及び緑化推進の活動。

- (2)特定事業 募集テーマは次の3つ。『1.花粉の少ない森づくり』、『2.災害に強い森づくり』、『3.耕作放棄地の森づくり』

対象事業の期間 / 平成18年9月1日～平成19年8月31日
可能な範囲で、活動の一部または全てを「森林ボランティアの日」(9月第3日曜日)の前後1ヶ月の間に実施するよう計画してください。
助成の額 / 一事業につき限度300万円。(特定事業は200万円)
問い合わせ先 / 【国内で行う事業】
(社)国土緑化推進機構「緑の募金」係
102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 Tel.03-3262-8451
Fax.03-3264-3974 ホームページ <http://www.green.or.jp>
【海外で行う事業】
(財)国際緑化推進センター「緑の募金」国際緑化公募係 112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル Tel.03-5689-3450(代)
Fax.03-5689-3360

平成18年度自然体験活動支援事業 第5回トム・ソーヤースクール企画コンテスト

受付締切 / 6月16日(金)必着
対象となる団体 / 【(1) 学校団体部門】小学校・中学校または、小中学校より委託・協力・協働などによって当該事業を主催する団体。小学校、中学校において授業や課外活動の一環として行われる活動で、小中学生が10名以上参加する企画で、かつ学校長の承認を受けたもの。
【(2) 一般団体部門】定款・規約等を整備し組織としての形態を有する団体で、小中学生が10名以上参加する企画であること。
対象となる活動 / 自然のなかでの体験活動であれば、内容は一切問いません。ユニークさと創造性にあふれ、高い教育効果が考えられるものとします。事業例...地域交流、環境教育、史跡探訪、自然探検、アウトドアスポーツなど目的が明確であり、青少年の健全育成に寄与するものであること。
対象事業の期間 / 平成18年7月10日～平成19年1月8日
賞金の額 / 【(1) 学校団体部門】文部科学大臣奨励賞1校(団体)100万円、優秀賞1校(団体)50万円
【(2) 一般団体部門】安藤百福賞1団体100万円、優秀賞1団体 50万円以上、全ての賞にチキンラーメン半年分。
応募方法 / 応募部門(1・2を確認の上、所定の用紙を郵送で提出。用紙はホームページからダウンロード。
問い合わせ先 / (財)安藤スポーツ・食文化振興財団
563-0041 大阪府池田市満寿美町8-25 「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」係(担当:武尾・谷口・村上)
Tel.072-752-4335 Fax.072-752-1288
E-mail zaidan@shizen-taikens.com
ホームページ (安藤財団) <http://www.ando-zaidan.jp/>
(自然体験.com) <http://www.shizen-taikens.com/>

野村国際文化財団 芸術文化助成

受付締切 / 6月23日(金)必着
助成の対象となる活動 / 【1、美術】既存美術館の開催する展覧会のうち、特に教育的色彩を重視するもの。その他、美術教育に係わる催事。
【2、音楽・オペラなど】オーケストラ、室内楽、独奏、合唱等の活動で教育プログラムを重視した催事への助成。音楽家の海外留学又は研修への助成。音楽普及と向上を目的とした国際的活動への助成。
【3、芸術文化の国際交流を目的とする活動や催事開催への助成】
助成の対象となる団体・個人 / 助成対象となる活動を行う団体および、個人。外国人の場合、日本国内における受入れ責任者(団体)が代わって申請。
対象事業の期間 / 下半期(平成18年10月～平成19年3月)の活動。上半期(4月～9月)の活動は12月に募集締切があります。
応募方法 / 申請書はホームページからダウンロードするか、郵送希望の場合は郵便、Faxなどで申請書の種類(美術団体A・美術個人a・音楽団体B・音楽個人b)を送付先住所、氏名および連絡先電話、Fax番号、E-mailアドレスを記入のうえ、下記まで請求。申請は郵送にて。
問い合わせ先 / (財)野村国際文化財団事務局 103-0027 東京都中央区日本橋1-9-1 Tel.03-3271-2330 Fax.03-3281-8522
ホームページ <http://www.nomuraholdings.com/jp/bunka-zaidan/>

(社福)NHK厚生文化事業団第17回「わかば基金」

受付締切 / 6月23日(金)必着
助成の対象となる団体 / 地域で活発な福祉活動を進めているグループ。法人は助成対象外ですが、NPO法人は申請できます。
助成の額 / 1グループにつき上限70万円。約15グループ支援予定。
応募方法 / 申込書は下記より電話にて取り寄せるか、ホームページからダ

ウンロード。申請は郵送のみ受付ます。Faxでは受付できません。
申込・問い合わせ先 / NHK厚生文化事業団東京本部 150-0041
東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル Tel.03-3476-5955
Fax.03-3476-5956 ホームページ <http://www.npwo.or.jp>
NHK厚生文化事業団中部支局 461-8725 名古屋市中区東桜1-13-3
NHK名古屋放送局内 Tel.&Fax.052-952-7150

ドコモ市民活動団体への助成

受付締切 / 6月30日(金)必着
助成の対象となる団体 / (1)日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体で特定非営利活動法人(NPO)等の法人格を有するもの。
(2)活動実績が2年以上である団体(NPO等の法人格を有する以前の活動実績を含む)
(3)複数のNPOが連携した協働事業で、地域の間支援組織(各地のNPOセンターなど活動支援団体)が代表申請団体となる場合はその協働グループ。
助成の対象となる活動 / テーマは「子ども育成」「子どもを守る」という視点から、次の項目に分類した活動内容のいずれかに該当するもの。
(1)不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対する精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動(フリースクール・カウンセリングなど)
(2)児童虐待やドメスティック・バイオレンス(DV)、性暴力などの被害児童・生徒を保護・支援する活動。
(3)非行、地域犯罪等から子どもを守るための支援活動。
(4)子どもの居場所づくり(働く親支援のための安全な保育、子どもの不安や悩みに耳を傾ける相談活動など)
(5)軽度発達障害(アスペルガー症候群、LD、ADHDなど)を持つ児童の支援活動。
(6)上記(1)～(5)以外で「子どもを守る」という視点に立った活動テーマに相応しい支援活動。
対象事業の期間 / 平成18年10月1日～平成19年9月30日
助成の額 / 1件あたり標準50万円、上限200万円。総額2500万円以内。
応募方法 / 詳細はホームページ参照。
問い合わせ先 / NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンダ(ドコモMCF) 107-0052 東京都港区赤坂2-4-5 国際赤坂ビル19階
Tel.03-5546-7711 Fax.03-5545-7722 E-mail
info@mcfund.or.jp ホームページ <http://www.mcfund.or.jp/>

丸紅基金社会福祉助成事業

受付締切 / 6月30日(金)消印有効
助成の対象となる団体 / わが国における社会福祉事業(福祉施設の運営、福祉活動など)を行う民間の団体。原則として非営利の法人。ただし、法人でない場合でも3年以上の継続的な活動実績があり、組織的な活動を行っている団体は対象となります。
助成の額 / 総額1億円をめぐりに50件以上、1件あたり原則、上限200万円。
応募方法 / 所定の申込用紙、添付書類を送付。申込用紙はホームページからダウンロードするか、郵便番号と住所、団体名、担当者名、電話番号、Fax番号を明記し、ハガキまたはFax、E-mailにて下記まで請求。
問い合わせ先 / 社会福祉法人丸紅基金 108-0014 東京都港区芝5-20-6丸紅東京本社三田別館4階 Tel.03-5446-2474・2475
Fax.03-5446-2476 E-mail mkikin@marubeni.com
ホームページ <http://www.marubeni.co.jp/kikin/fund.htm>

ユニバーサル財団市民活動助成

受付締切 / 7月31日(月)必着
助成の対象となる団体 / 1、高齢者が活動する市民活動団体。2、高齢者の医療・保健・福祉、まちづくり等、高齢者を対象とする市民活動を行う団体。
対象事業の期間 / 1年間
助成の額 / 原則として100万円上限。
応募方法 / 財団所定の申請書を書留や宅配便で送付。
問い合わせ先 / 財団法人ユニバーサル財団 160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル Tel.03-3350-9002 Fax.03-3350-9008 E-mail info@univers.or.jp ホームページ <http://www.univers.or.jp/>

助成財団センターは、助成、表彰、奨学などを行う財団法人・その他の法人などの情報を収集し、活動内容を広く社会に発信していくことを主な目的としています。その情報は冊子で刊行されているほか、ホームページやファクシミリサービスでも閲覧できます。(財)助成財団センター Tel.03-3350-1857 Fax.03-3350-1858
ホームページ <http://www.jfc.or.jp/>

つながれ!..... NPO支援ネットワーク

行政と市民との協働の現場にたずさわるコーディネーター

～NPO(ボランティア・市民活動団体等)からの協働事業提案実践報告会から～

レポート:みえ市民活動ボランティアセンター 亀山裕美子

事業を行っている、行政の力を借りたい、多くの市民の智恵を集めたいと思う時があります。ただ、いろいろな人の参画する場で物事を進めていくのは難しく、うまく協働することができないとお悩みの方も多いはず。協働の現場の悩みや現状を改善するために、コーディネーターという人たちが県内各地で活躍しています。

日頃は見えにくいコーディネーターの活動ですが、5月15日に開催された「NPO(ボランティア・市民活動団体等)からの協働事業提案実践報告会」を通して垣間見ることができました。

NPO(ボランティア・市民活動団体等)からの協働事業提案実践報告会

「NPOからの協働事業提案」は、平成15年度から実施され、今年で4年目になります。市民発で事業を提案し、採択された各事業には行政と民間から1名ずつサポート委員がつき、コーディネーターの役割を担います。

当日の実践報告会・説明会の参加者は約80名。途中から参加した野呂知事も熱心に平成17年度に実施された協働事業の報告に聞き入っていました。



野呂知事のご挨拶

サポート委員として活躍するコーディネーター

平成17年度の協働事業提案のサポート委員は、中盛汀さんと浦田宗昭さんのお二人でした

コーディネーターは言わば黒子。主役はあくまでも事業を実際に行うNPOや行政の方々。コーディネーターがめざすものは、事業がいかに実り多いものになるかということです。そのための方策を、事業を行う方と一緒に考え、解決策を探します。

影になり、時には提言者として日なたになり、事業をサポートしています。



中盛汀さん
W.T.Aまちづくりセンター

「新しい時代の公」を支える仕組みが整備されないままに、概念だけが広がっていくことに懸念を表明されていました。

行政と市民の異文化コミュニケーションであり、ぶつかり合う中ですばらしいものができるとエールを送っていました。



浦田宗昭さん
いせ市民活動センター

コーディネートを行った平成17年度協働事業

- ◆ わたしたちは、地域で外国人の方が気軽に相談できる場をつくります！

実践報告1: NPO法人 愛伝舎

TEL: 050-3532-9911



愛伝舎は、携帯電話等を通じてスペイン語・ポルトガル語を専門に通訳を行っています。現在の活動から、地域で気軽に相談できる場がないために孤立する外国人の支援を行ってきました。また、その支援の現場では、行政等からの通知が日本語だけで記載されていて、外国人に正確に伝わっていないことが見えています。平成17年度は、県営住宅に入居する外国人の方のための電話通訳、生活していくうえでの困りごとを現場で伝えるガイダンス事業を提案し、実施に向けた検討を行ってきました。

- ◆ わたしたちは、子どもたちの心の居場所づくりをしています！

実践報告2: チャイルドライン24

TEL: 059-232-8172



「チャイルドライン24」は、民間16組織でつくる協働事業の実施組織の名称です。平成15年度に協働事業提案を行い、1年半の検討を重ね、平成17年度に実施の運びとなりました。

子どもたちがありのままに自分のことを話せる場をつくらうと、24時間フリーダイヤルを設置しました。今までになかった子ども専用電話を毎週末開設しています。

- ◆ わたしたちは、災害時に難病患者自身が生き延びるための仕組みを考えています！

実践報告3: 災害時の難病患者支援プロジェクト

連絡先: 三重県生活部NPO室



災害時の難病患者支援プロジェクトは、発生時にも継続的な治療を要する難病患者の方の支援をどう行うかについて、まず、1型糖尿病(IDDM)をモデルに、NPO、製薬会社、医療関係者および行政等が幅広く関わり、検討を行ってきました。

そこから、まず、患者自身が災害時にどういった行動をとるかに備えておく必要があることが見えてきて、平成17年度は、支援者向けのチラシと1型糖尿病(IDDM)自分マニュアルをつくりました。

▶▶▶▶▶ がんばれネットワーク ▶▶▶▶▶

三重県内の市民活動団体の人をリレーで紹介していきます。但し、紹介するに当たってはルールがあります。1・同じ地域で無いこと。2・同じ活動分野で無いこと。さてどんな人がどんなふうに、つながっているのでしょうか。鈴鹿混声合唱団で指揮を担当している桂宏さんからバトンが渡ったのは加藤二三子さん。鈴鹿子ども劇場の設立メンバーに加わって以来、青少年育成と文化の分野で鈴鹿市の市民活動をリードしてきた方です。

仲間と一緒に文化活動

……加藤さんが市民活動を始めたきっかけは？

5人の子どもを育てていた時に、子育て仲間から「鈴鹿に子ども劇場を作りませんか？」と呼びかけられて創立メンバーになったことです。私自身、舞台を見たり、音楽を聴いたりということが好きでしたので、子どもにも生の音楽や演劇を見せたいという気持ちがありました。

……子ども劇場とはどんな活動をする団体ですか？

私が参加していた当時は子どもたちに演劇や音楽などを鑑賞する場を作ったり、自主活動として子どもたち自身がキャンプをしたり、合唱を楽しんだりしていました。私はここで運営委員長を3年、事務局局長を10年ほど勤めました。この時にできたネットワークから、その後、民族伝統をベースにした作品を作り、全国で公演を行っているわらび座や倉本聡さんが主宰している富良野塾の公演支援を頼まれて、実行委員会形式で開催してきました。

……加藤さんの経験が買われて依頼されたのですね。

富良野塾の時は当時の鈴鹿市の文化部長さんから「富良野塾公演を実現させたいが、行政だけではできないので、ぜひ一緒にやってくれませんか」と声を掛けていただきました。市民参加の実行委員会形式で公演を行ったことは「市民でこういった活動を行うことが文化興しに繋がる」と倉本聡さんも感動してくださったそうです。

……実行委員はどうやって集めたのですか？

この指止まれ方式で、参加を希望してくれた人に集まってもらっています。これまで何度も演劇などの公演を実行委員会で行っているのですが、毎回人を集めるのではなくNPO法人などの組織にしてはどうかと言われるのですが、私は組織化することが苦手で、組織を作るとそれを大きくすることにエネルギーが行ってしまっていて、本来の目的がどこかに行ってしまう場合もあるでしょう。そこに違和感が出てきますし、人との葛藤も起こります。そうなった時に空しさだけが残ることがあると思いますし、実際経験もしました。私が考える活動の基本はやはり善意。一つの目的に集まって、真剣にそこに向かって進んでいくことが、今の自分のあるべき姿だと思っています。

みんなの力で子どもを育てる 鈴鹿青少年育成市民会議

……その他にはどんな活動を？

鈴鹿青少年育成市民会議

加藤二三子 さんに 聞く



青少年育成市民会議(以下、市民会議と略)の会長をさせていただいて今年で8年になります。その前には副会長を4年させていただきました。今年度で会長を解任していただき、新しい会長にバトンタッチします。市民会議は青少年の健全育成を目的に、鈴鹿市の主だった34団体が参加しています。

……例えばどんな団体がありますか？

青少年団体や町民会議、ロータリークラブ、商工会議所、PTAなどが入っています。また町民会議の会長に、市民会議の地域部長を兼任してもらっています。

……町民会議とは？

鈴鹿市には27の行政区があるのですが、その一つひとつに町民会議というのがあります。メンバーは学校、地域の住民、自治会、PTA、子ども会、民生委員などで構成されています。この町民会議は市民会議の下部組織ではなく、独自に連絡協議会を持っていますが、会長が市民会議のメンバーを兼任することで、常に連携しながら活動しています。

……町民会議との連携を取っているのは鈴鹿市だけですか？

市民会議は各市で行政主導で作られた団体ですから、組織のあり方も、内容や運営も様々なのです。ただ、全市が密接に繋がっているという面では鈴鹿は先進市ではないかと思っています。実際、3年前には国民会議の方から実践事業の委託を受けましたから。

……鈴鹿市と他市との違いを教えてください。

たいていの市民会議の事務局は教育委員会の中にありますが、鈴鹿市は独立しています。私はここが鈴鹿の一番良い所だと思います。昭和55年に市民会議は任意の団体なのだから、自分たちの拠点として事務局を作ろうということになり、市にお願いして市役所分館を社会教育団体の活動拠点にしてもらいました。また自立した活動をするためには専従のスタッフが必要ではないかということで、現在は事務局長と事務局員、それぞれ1名に働いてもらっています。

……専従スタッフができる前の事務局は？

教育委員会に所属していた青少年指導員が兼任していましたが、その制度が廃止されたので、それを機に自立した専従事務局体制を作りました。他の市では今でも教育委員会が事務局を兼任している所が多いと思います。

……予算は？

会費制と市の補助金で賄っています。専従スタッフで運営していますし、予算も自立していますので、他の市よりは自主性が重んじられていると思います。

……事業内容などはすべて自分たちで決めるのですか？

役員会、理事会ですべて決めます。行政側からは生涯学習課に担当部署として会議に出席してもらっていますが、アドバイスをいただくだけで、決定権はありません。

……青少年の健全育成とは具体的にはどういったことですか？

子どもの健やかな成長を願い、子どもたちの安全を保障すること、親子のあり方など精神面のことでしょうか。

……安全面ではどのような活動をしていますか？

各町民会議で安全サポートチームを作ったり、登下校時や夜間などにパトロールを行っています。市民会議としては、町民会議に細かな活動をお願いするカタチで、一緒に青少年問題を考えて行こうと

働きかけています。

……精神面の問題について、加藤さんはどう考えていますか？

今の子どもたちの状況を作ったのは、親の問題でもあり、私たちの問題でもあります。私の長男は今47歳で、高校生の孫もいますから、今の親世代、そして先生たちも私たちが育てた年代の子です。今も昔も人間そのものは変わらないけれど、どこかで大事な物をいっぱい失いながら育ってきた…、育ててしまったかなと。

……確かに子どもの問題と共に、親の問題もメディアに取り上げられています。

学級崩壊にしても、「先生に統率力が無い」とか、「先生の当たりが悪いから、この学級はどんどん悪くなる」とか、親は先生だけに責任を押しつけていますね。でも、そうやって抗議している親はどうなのかと言えば、授業参観中に携帯電話を鳴らしたり、授業を見ずにおしゃべりを楽しんだりしていますから。

母親としての感性で、 子どもに恥ずかしくないように 活動してきました。

……それらの問題に対してはどんな活動を？

子どもたち参加による朗読劇を行いました。私が会長になってからもいろいろな講演会を行いました。偉い人の話を聞いて、各会の代表の方や行政の方を招いてシンポジウムをしても大人の視点で子どものことを考えているだけで、大切なことが抜け落ちているのではないかと思ったのです。本当に大事なのは子どもたちの声をすくいあげて、耳を傾けること。そこで子ども参加の朗読劇を提案しました。子どもたちにアンケートを取って、それをまとめるだけでもいけないと思ったのです。周りからは「それは夢。成功させるのは難しい」と言われましたが、朗読劇のような文化的な手法を使えるのが私が会長の時ぐらいだろうと賛同してくれました。実際、子ども劇場などの文化活動で培ったノウハウが生きました。この時は教育委員会と協働で取り組んだのですが、今の教育長さん、当時は次長さんでしたが、すごく乗ってくれて、アンケートの回収作業などすべてを協働作業で行うことができました。

……子どもの声はどうやって集めたのですか？

鈴鹿市全ての小学校から高校までに、「悩みはありませんか？どんなことでもいいから生の声を届けてください」という内容でアンケートを配りました。プライバシーを守るよう全て密封できるようにして、アンケートを集める担任の先生にも見えないようにしました。そのかいもあって、506通も集まりました。凄いですよ(笑)。その翌年は子どもの生の声の次は大人の生の声を集めようということで、先生方にもアンケートを寄せてもらい、その次は家族とテーマを変えながら3年間、朗読劇に取り組みました。その後、3年間の積み重ねの上に、子どもたちの心の居場所づくりを考えるためのシンポジウムを行い、アンケートを冊子にまとめました。

……運営は大変でしょう？

この8年間は絶えず市民会議を念頭に置きながら生活してきたような気はします。スケジュール手帳はすぐに真っ黒になりますね。

……それでも続けてきたのは？

やはり子どもの問題は、自分の人生の中で一番大事なことだと思ったからです。自分の子どもや家庭だけでなく、子どもをきちんと育てなかつたら社会が構成できなくなり、それは自分の老後の問題や幸せに繋がっています。戦後、日本が名だたる経済大国になったのはそれを支えた人たちに与えられた教育。戦前の人たちが子どもに対して行った教育や子育ての熱意があったからこそ、しっかりした人間が育って、敗戦の後で立ち上がってこれたのだと思います。子どもの教育によって国は栄えたり、滅びたりしますし、家庭も同じです。私はエリートを育てようという気持ちは全然ありません。ただ、人間らしく、心豊かに生きたいと思う子どもたちを育てていかなくてはいけないと思います。

……子育てへの想いが市民活動に結びついた理由は？

私が市民会議の会長を引き受けた理由は、古くさい言い方になりますが、ご恩返しです。私は5人の子どもを成人まで育てましたが、それができたのは自分一人の力ではありません。周りのみなさんに育ててもらった部分の方が多いのです。みんなのおかげで自分の子どもが育ったのだから、お返しで少しでも子育てのお手伝いできたと思います。それと、私自身も親や友だち、いろんな方に育てられて大人になってきました。大きなことはできませんが、それも少しずつ返していきたいですね。

……加藤さんから見た理想のリーダーは？

自分を無にできる人が一番相応しいかな。リーダーになる人には自分自身の夢のために活動する人と、人の役に立つならやろうという人の二通りがあると思います。私自身は統率力もありませんし、リーダーになりたいともあまり思っていない(笑)。私を必要とくださるなら、やらせていただくこうと思っているだけです。私が市民会議やいろいろな文化団体でリーダーの席に座っているのは、周りにサポートしてくれる人たちがたくさんいるから座っているだけなんです。リーダーになる人が決まらないと会はまとまらないでしょう？そうになると、「ああ、やらざるえないかなあ」と引き受けてしまうのです。リーダーになると次は組織力が問われますから、今まで知り合った人たちに「助けて！」って声をかけていくんです。私の仲間たちからは「またあ？加藤さんはアホだから」と言われますよ(笑)。「やめておけと言ったのに、また引き受ける。加藤さんは損ばかりで、見てられないから助けてあげるわ」と。

……どんな団体でも会長、役員次第で活動内容が変わってくると思います。

あて職だからと思う人。あて職の中で一生懸命やろうとする人。あて職を越えて、目的に向かって一生懸命動く人の三通りがありますね。最終的には一人ひとりの個性ですが、どうまじめに、真剣に、誠実に捉えるかで違いが出てくると思います。

……頼まれて仕方なく受けたというのではダメでしょう。

私だって最初はそうですよ。ただ、受けた以上は自分の心に恥ずかしくないよう勤めていきたいと思っているだけ。受けるかどうか、イエス、ノーは自分で言うのですから。私は自分が置かれた立場の中で必死に生きたいと思います。純粋に、正直に生きたい。そして、私の活動を見た時に子どもがどう思うのか。母親としての感性で、子どもに恥ずかしくないように活動してきましたし、これからもそうでありたいと思っています。

加藤二三子さんはこの人を**紹介**します。

上野恵美子さん

ホスピスである七栗サナトリウムで、10年も病院ボランティアを続けていらっやいます。

お
ね
が
い

市民活動・ボランティアにユースに情報を提供される際、以下のことにご注意ください。

(1) 原稿はにユースにそのまま掲載できる状態にして、毎月15日までに送りください。

(2) 送付はE-mailもしくはFaxで。その際、「市民活動・ボランティアにユースへの掲載のお願い」と件名を明記してください。Fax.059-222-5971 E-mail seiknpo@pref.mie.jp

転載を希望される場合は必ずNPO室に連絡してください。

計3回開催した朗読劇の
リーフレットです。